

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
期	Ⅰ 安 心				Ⅱ 成 長				Ⅲ 自 立				
育 っ て ほ し い 児 童 の 姿	入学当初の児童の姿 ・いろいろなものに 興味をもつ姿 ・新しい生活に不安 をもつ姿	○体験的な活動を通して、「わかった」「できた」を実感する。 ○数や言葉に関心をもち、楽しみながら活動する。		○自分の考えをもち、友達の考えを最後まで聞こうとする。 ○小学校生活の中で「するぞう」「やってみたい」「不思議 だな」「何故かな」を見付ける。		○相手に伝わるように言葉や体で豊かに表現する。 ○課題を見つけ、課題解決に向けて試行錯誤しなが ら、前向きに取り組む。		期待する児童の姿 ・相手意識や目的意識をもっ て自分の考えを伝えたり、 友達の考えを尊重したりす ることができる。 ・自分がやるべきことを、諦 めないでやり切ることがで きる。 ・仲間意識をもって、自他の よさを認め合いながら生活 することができる。					
		○学校のルールを知る。 ○身の回りのことは自分でして、分からないことや困ったこと は、友達や教師に聞いて解決する。		○学校生活のリズムが身に付き、ルールを守って生活する。 ○自分の目標をもち、目標達成に向けて前向きに取り組む。		○善悪の判断をして行動する。 ○係や当番の仕事を、責任をもってやり遂げる。							
		○友達に関心をもち、話したり遊んだりする。 ○身近な人に自分からあいさつをする。		○相手の気持ちを考え、思いやりをもって友達に接する。 ○友達ののんびりを見つけ、よさを認める。		○様々な人と積極的に関わり、協力する。 ○自他のよさを認め合い、生かしながら活動する。							
主 な 学 習 活 動	生活科を中心とした 合科的・関連的な学習活動の充実				Ⅰ年生年間指導計画に基づく学習活動の実施（合科的・関連的な学習活動を含む）								
	にこにこタイム 新しい人間関係づくりを中 心とした時間。1時間目に 設定し、前半は運動場で体 を動かし、後半は教室で朝 の会や手遊びを行う。		わくわくタイム 生活科を中心とした学習の時 間。1時間の中で生活科を軸 に、図画工作科、音楽科等を 組み合わせた活動を中心とし た学習を行う。		ぐんぐんタイム 国語科・算数科を中心とした 学習の時間。1時間の中で国 語科の音読や算数科の数の学 習を組み合わせ、学習に興 味・関心・意欲をもたせる。		事例①秋の樹徳ランド 生活科「ようこそあきのテーマパークへ」＋国語科「しらせたいな見せたいな」 生活科で秋見つけをし、自然物を使ったおもちゃ作りを楽しんだ。その後、 年長児を招待して遊びたいという思いをもち、秋の樹徳ランドを計画した。会 の準備や運営をⅠ年生が主体となって行うことで、大きな達成感を感じるこ とができる。さらに、秋の樹徳ランドの経験を保護者に伝えたいという思いをもち、 国語科の経験したことを書く単元につなげていった。				事例②ようこそそじゅとくしょうがっこうへ（体験入学） 生活科「もうすぐ2年生」＋国語科「いいこといっぱい、Ⅰ年生」 3学期になり、2年生になることを意識したⅠ年生は、年長児に小学校のこ とを教えてあげたいという思いをもつようになった。そこで、国語科の学習を 通して、1年間を振り返り、自分の心に残ったことを文章にする学習を行った。 また、生活科で1年間の振り返り、自分の成長に気付いたり、「年長さんが安心 して入学できるように」という思いをもって活動したりすることができた。		
環 境 構 成 （ 人 ・ も の ・ こ と 等 ）	人 ・就学前から「秋の樹徳ランド」 や「ようこそそじゅとくしょう がっこうへ」、出前授業等小 学校の教師と年長児の交流の 場を設けたり、入学後にスタ ート訪問で園所の先生が来校 したりすることで、児童が安 心して学校生活を送れるよう にする。	もの ・片付ける場所や片付け方 が分かるように、写真や 絵カードを活用する。 ・活動の見通しがもてるよ うに、1日の流れを掲示 する。 ・指示の理解がしやすいよ うに、視覚的支援をする。	こと ・仲間づくりができるように、 ペア・グループ・クラス・ 学年など、様々な規模の交 流活動を仕組む。 ・児童の様子に合わせて柔軟 に学習を行えるようにする ために、モジュール学習を 取り入れる。	人 ・縦割り班活動を通 して、他学年との 関わりを深める。 ・様々な教職員と関 わることができる よう、学校探検や 行事を計画的に行 う。	もの ・材料コーナーを設 置し、授業で児童 が主体的に学習に 取り組めるよう、 様々な材料や道具 を児童が集めて使 えるようにする。	こと ・年下への相手意識 をもったり、自分 たちの成長を感じ たりするために、 近隣の園所と連携 して「秋の樹徳ラ ンド」を行う。	人・こと ・新Ⅰ年生を迎える気持ちを高めるため に、「ようこそそじゅとくしょうがっ こうへ」を行う。 ・6年生へこれまでの感謝の気持ちが伝 えられるよう、6年生を送る会の意義 を伝える。 ・自らの成長や、周りの人たちからの支 えに気付き、そのことを伝えられるよ う、参観日を活用する。	もの ・これまでの学 びを振り返る ことができる よう、写真や 成果物を掲示 するコーナー を設ける。					
交 流 活 動	スタート訪問（4月） 児童は、自分がいろいろな人に 応援されていることを実感し、小 学校生活への意欲を向上させる。	保育参観（7月） 教師は、園児の様子を観察し、発達 の連続性の理解を深める。	合同研修会（8月） 教師は、こども達の発達について理解 を深め、児童との関わり方を考える。	秋の樹徳ランド（11月） 児童は、年長児の立場に立って考えることができる ようになった自分の成長に気付く。年長児は、小 学校生活への安心感や期待を高める。	出前授業（1月） 年長児は、小学校入学への期待 を高め、安心して小学校生活を スタートできるようにする。	ようこそそじゅとくしょうがっこうへ（2月） 児童は、学校生活が自分たちと同じ ように充実したものになるよう、思 いや願いをもって、年長児を案内し たり、準備をしたりする。	新入学児童連携（3月） 教師は、新Ⅰ年生の連携 し、実態把握やクラス分 けに活用する。						
	年間6回程度、連絡協議会を開く（交流活動の打ち合わせ及び反省、情報交換）								年間7号程度、連携通信「にじ」を発行する（連携協議会の内容まとめ、交流活動の様子）				
家 庭 と の 連 携	入学式（4月）	4月、6月、11月、2月に参観日・学級懇談会を開く				4月、7月に個人懇談会を開く				入学説明会（1月）			
	毎月2回以上、学年通信を発行する（活動内容・方針、児童の様子等）												